

# 2025 年度

## エコアクション 21 環境経営レポート



活動期間：2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

発行日：2026 年 5 月 1 日

(保管期限：5 年)

## サワダ工業株式会社

## —目次—

1. 組織の概要
2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日
3. 環境経営方針
4. 環境経営目標（中期目標を含む）
5. 環境経営計画（実施体制を含む）
6. 環境経営目標に対する実績値と評価
7. 環境経営目標と計画の結果と評価、  
並びに次年度の目標計画
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、  
並びに違反・訴訟等の有無
9. 代表者による全体評価と見直し・指示

## 1. 組織概要

事業所名	サワダ工業株式会社		
代表者名	代表取締役社長 澤田 靖		
所在地	愛知県知多郡武豊町多賀 7-6		
設立	1966 年 5 月		
資本金	1,000 万円	従業員数(EA21 基準)	30 名 (2026 年 4 月時点)
売上高	68,538 万円 (2025 年 4 月～2026 年 3 月)		
生産量	705.86t (2025 年 4 月～2026 年 3 月)		
床面積	1,249 m <sup>2</sup>		
事業内容	自動車用電装機能部品、機構部品及びそれらの関連部品の製造 〈生產品目〉 ・車載用コネクタ ・排気ブレーキ用バルブ ・キー関連 ・コントロールワイヤー等		
主要取引先	株式会社東海理化電機製作所		
主要な設備	機械名		台数
	二重係止コネクタ自動組付機		10
	基板用コネクタ自動組付機		1
	エアーコンプレッサー(22kW)		1
環境管理責任者	澤田 康平		
環境事務局	経営管理室		

## 2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

認証登録範囲	全組織・全活動
対象期間	2025年4月1日～2026年3月31日
レポート発行日	2026年5月1日

## 3. 環境経営方針

### (1) 会社理念

当社の事業活動は、ステークホルダーの要求事項を満たす事に留めず、「感動」の言葉をいただける+αを追求する。

(制定日 2017年4月1日)

### (2) 環境経営方針

地球環境保全は、全ての人間活動で最重要課題の一つとなっております。サワダ工業株式会社は地域社会への貢献も理念に含んでおり、製造業を営む会社として以下の方針を策定し、環境負荷低減活動を積極的に取り組んでまいります。

- 一、製品及び製造工程における環境負荷低減に取り組めます。
- 一、事業活動により生じる環境への影響を把握・評価し、全社で継続的な改善に取り組めます。
- 一、全従業員の環境に関する知識の構築と改善意識の向上に努めます。
- 一、環境関連法規等の法令の遵守と内部統制の強化に努めます。
- 一、地域社会の一員として外部との環境コミュニケーションを深めます。

(制定日 2021年4月1日)

代表取締役社長 澤田 靖

## 4. 環境経営目標（中期目標を含む）

作成日：2025年4月1日

No.	取り組み項目	単位	年度基準 (2024年度)	2025年度	2026年度	2027年度
1	CO <sub>2</sub> 総排出量	kg-CO <sub>2</sub>	40,505	2024年度 実績比-1%	2025年度 実績比-1%	2026年度 実績比-1%
	対生産量比・原単位	kg-CO <sub>2</sub> / t	61			
	電力使用量 (内 CO <sub>2</sub> フリー電力)	kWh	122,056 (36,000)			
	ガソリン使用量	ℓ	1,657			
2	産業廃棄物 (最終処分(埋立)量)※	t	総排出量：0.28 最終処分量：0	最終処分量：0		
	一般廃棄物	t	0.27	2024年度 実績比-1%	2025年度年度 実績比-1%	2026年度 実績比-1%
3	水使用量	m <sup>3</sup>	121	2024年度 実績比-1%	2025年度年度 実績比-1%	2026年度 実績比-1%
4	環境負荷化学物質の 管理	化学物質使用量を把握し適正に管理できていること				
5	環境関連法規の遵守	環境クレーム0件				
6	環境に関する 社会貢献活動	地域の環境活動へ参画できていること				

※電力のCO<sub>2</sub>排出係数は2019年度中部電力のCO<sub>2</sub>排出係数0.426(kg-CO<sub>2</sub>/kWh 調整後)を使用する。

※CO<sub>2</sub>排出量計算については「エコアクション21ガイドライン(2017年版)」の「環境負荷チェックシート」に基づくものとする。

※産業廃棄物排出量の総排出量は参考値として記載する。

※最終処分(埋立)量とは直接埋立てる量とする。

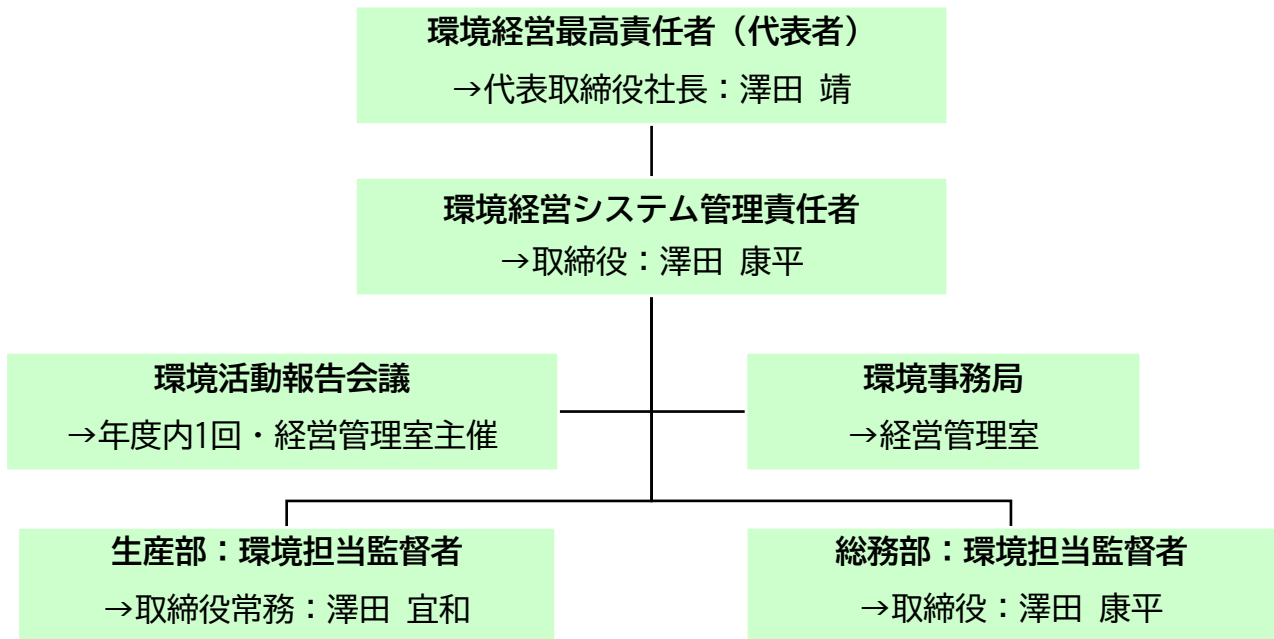
※CO<sub>2</sub>総排出量の長期目標は、2030年度までに2019年度比30%削減とする。

## 5. 環境経営計画（実施体制を含む）

作成日：2025年4月1日

取組項目	製造	総務	取組内容と計画
<b>電力によるCO<sub>2</sub>排出量の削減</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷暖房機器使用時間、空調温度適正化</li> <li>・不要照明、非稼働設備の電源オフ</li> <li>・昼休みの消灯</li> <li>・エアリー漏れ点検・修理の実施</li> <li>・カーボンニュートラル取り組み教育の実施</li> <li>・オフサイト PPA による電力購入</li> </ul>	○	○	電力使用量を基準年度の数値と比較し評価する。環境担当監督者はその結果を踏まえ、従業員に取組の再確認と徹底を促す。
<b>化石燃料によるCO<sub>2</sub>排出量の削減</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社有車の効率的な活用（積載、移動の効率化）</li> <li>・急加速の抑制</li> <li>・冷暖房の控えめ使用（社有車）</li> </ul>	○	○	化石燃料使用量を基準年度の数値と比較し評価する。環境担当監督者はその結果を踏まえ、従業員に取組みの再確認と徹底を促す。
<b>産業廃棄物排出量の削減</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・工程内不良率の削減</li> <li>・生産効率の向上</li> </ul>	○	-	産業廃棄物排出量を基準年度の数値と比較し評価する。環境担当監督者はその結果を踏まえ、従業員に取組みの再確認と徹底を促す。
<b>一般廃棄物排出量の削減</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙ごみのリサイクル化の徹底</li> <li>・持ち込みごみの持ち帰り</li> </ul>	○	○	一般廃棄物排出量を基準年度の数値と比較し評価する。環境担当監督者はその結果を踏まえ、従業員に取組みの再確認と徹底を促す。
<b>水使用量の削減</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・節水活動強化月間（7月）の設置</li> <li>・節水コマの設置</li> </ul>	○	○	水使用量を基準年度の数値と比較し評価する。環境担当監督者はその結果を踏まえ、従業員に取組みの再確認と徹底を促す。
<b>環境負荷化学物質の管理</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理状態のチェック（使用量、保管方法等）</li> <li>・環境負荷物質（SOC）教育の実施</li> </ul>	○	○	年1回、環境負荷化学物質の使用量、保管方法についてチェックし評価する。
<b>環境関連法規等の遵守</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境関連法等の点検、遵守状況の確認</li> </ul>		○	年1回、該当法規の点検と遵守状況の確認を行う。
<b>環境への取り組みの自己チェック項目の改善</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗状況の確認</li> <li>・グリーン購入の調査実施、推進活動</li> </ul>	-	○	年1回、環境への取り組みの自己チェックを行い、項目が改善されているか確認する。
<b>環境に関する社会貢献活動</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・会社周辺の清掃活動</li> <li>・徒歩、自転車通勤の奨励</li> <li>・地域リサイクル活動の支援</li> </ul>	○	○	社会貢献を常に意識し、定期的な社会貢献活動に取り組む。

## 実施体制



環境経営最高責任者（代表者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営システム管理責任者をはじめとする、必要な責任者の任命</li> <li>・環境経営システムの実施に必要な経営諸資源の準備</li> <li>・環境経営方針の策定、見直し及び全従業員への周知</li> <li>・環境経営システムマニュアル、環境経営目標、環境経営計画の承認</li> <li>・代表者による全体の評価と見直しの実施</li> <li>・環境経営レポートの承認</li> </ul>
環境経営システム管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営システム、環境経営システムマニュアルの構築、実施、管理</li> <li>・環境関連法規等の取りまとめを承認</li> <li>・環境経営目標、環境経営計画を確認</li> <li>・環境経営活動の取り組み結果を代表者へ報告</li> <li>・環境レポートの確認と改訂指示、公開</li> </ul>
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営システム管理責任者を補佐し、エコアクション 21 を推進する</li> <li>・環境負荷及び環境への取り組みの自己チェックを実施</li> <li>・環境経営システムマニュアルの改訂</li> <li>・環境経営目標、環境経営計画原案の作成</li> <li>・環境経営活動の実績集計</li> <li>・環境関連法規等の取りまとめと遵守評価の実施</li> <li>・環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>・環境経営レポートの作成</li> </ul>
各部門環境担当監督者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の管理範囲における全員参画での環境経営システムの運用</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚</li> <li>・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> </ul>

## 6. 環境経営目標に対する実績値と評価

評価：○目標達成 ×不十分

作成日：2026年4月1日

No.	取り組み項目	単位	基準年度	2025年度目標	2025年度実績	評価
	削減率(全数値項目)	%	2024年度	-1%		
1	CO <sub>2</sub> 総排出量	kg-CO <sub>2</sub>	40,505	40,100	41,414	×
	対生産量比・原単位	kg-CO <sub>2</sub> / t	61	60	59	○
	電力使用量 (内CO <sub>2</sub> フリー電力)	kWh	122,056 (36,000)	120,835	121,390 (36,000)	×
	ガソリン使用量	ℓ	1,657	1,640	2,171	×
2	産業廃棄物 (最終処分(埋立)量)	t	総排出量：0.28 最終処分量：0	最終処分量：0	総排出量：0.26 最終処分量：0	○
	一般廃棄物	t	0.27	0.27	0.32	×
3	水使用量	m <sup>3</sup>	121	120	79	○
4	環境負荷化学物質の 管理	化学物質使用量が把握・管理できている				○
5	環境関連法規の遵守	環境クレーム0件				○
6	環境に関する 社会貢献活動	地域の環境活動へ参画(廃品回収へ参画、周辺美化)				○

※電力のCO<sub>2</sub>排出係数は2019年度中部電力のCO<sub>2</sub>排出係数0.426(kg-CO<sub>2</sub>/kWh 調整後)を使用する。

※2024年度よりCO<sub>2</sub>フリー電力を一部採用している。

※産業廃棄物排出量の総排出量は参考値として記載する。

※最終処分(埋立)量とは直接埋立てる量とする。

## 7. 環境経営目標と計画の結果と評価、並びに次年度の目標計画

評価：◎十分出来た ○ほぼ出来た △不十分

作成日：2026年4月1日

取組項目	製造	総務	次年度の取組内容と計画
<b>電力によるCO<sub>2</sub>排出量の削減</b>			
・冷暖房機器使用時間、空調温度適正化	○	○	今年度の取組を継続する。
・不要照明、非稼働設備の電源オフ	◎	◎	
・昼休みの消灯	◎	◎	
・エアー漏れ点検・修理の実施	○	-	
・カーボンニュートラル取り組み教育の実施	○	○	
・オフサイト PPA による電力購入	-	◎	
<b>化石燃料によるCO<sub>2</sub>排出量の削減</b>			
・社有車の効率的な活用(積載、移動の効率化)	○	△	今年度の取組を継続する。
・急加速の抑制	◎	◎	
・冷暖房の控えめ使用(社有車)	○	○	
<b>産業廃棄物排出量の削減</b>			
・工程内不良率の削減	◎	-	今年度の取組を継続する。
・生産効率の向上	◎	-	
<b>一般廃棄物排出量の削減</b>			
・紙ごみのリサイクル化の徹底	◎	◎	今年度の取組を継続する。
・持ち込みごみの持ち帰り	◎	◎	
<b>水使用量の削減</b>			
・節水活動強化月間(7月)の設置	◎	◎	今年度の取組を継続する。
・節水コマの設置	-	◎	
<b>環境負荷化学物質の管理</b>			
・管理状態のチェック(使用量、保管方法等)	◎	-	今年度の取組を継続する。
・環境負荷物質(SOC)教育の実施	◎	○	
<b>環境関連法規等の遵守</b>			
・環境関連法等の点検、遵守状況の確認	-	◎	今年度の取組を継続する。
<b>環境への取り組みの自己チェック項目の改善</b>			
・進捗状況の確認	-	◎	今年度の取組を継続する。
・グリーン購入の調査実施、推進活動	◎	◎	
<b>環境に関する社会貢献活動</b>			
・会社周辺の清掃活動	◎	◎	今年度の取組を継続する。
・徒歩、自転車通勤の奨励	○	○	
・地域リサイクル活動の支援	-	◎	

## 8. 環境関連法規等の遵守状況

作成日：2026年4月1日  
 遵守確認：2026年3月 経営管理室

区分	関連法規等	規制の内容	遵守状況
水質	浄化槽法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浄化槽設置後の外観検査・点検</li> <li>・定期検査（毎年1回の法定検査の実施）</li> </ul> [対象設備：浄化槽]	○
廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業廃棄物の確認（帳票類管理、適正処理、保管基準）</li> <li>・産業廃棄物管理票（マニフェスト伝票）の管理</li> <li>・産業廃棄物管理票（マニフェスト伝票）の交付</li> <li>・廃棄物処理業者との委託契約の締結</li> </ul>	○
騒音・振動	騒音規制法 (県民の生活環境の保全等に関する条例)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・騒音特定施設の設置、変更の届出</li> </ul> (ただし、騒音令別表第1に定めるコンプレッサーについて、一定の騒音を発生させないものとして環境大臣が指定するものは、規制対象外となる) [対象設備：コンプレッサー（指定設備につき規制対象外）]	○
	振動規制法 (県民の生活環境の保全等に関する条例)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振動特定施設の設置、変更の届出</li> </ul> (ただし、振動別表第1に定めるコンプレッサーについて、一定の振動を発生させないものとして環境大臣が指定するものは、規制対象外となる) [対象設備：コンプレッサー（指定設備につき規制対象外）]	○
危険物	消防法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防用設備等の点検</li> <li>・危険物、可燃物の保管管理</li> </ul>	○
リサイクル	家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定家庭用機器廃棄物の排出時の収集、運搬又は再商品化等をする者への引渡し、必要な料金の支払い</li> </ul>	○
フロン	フロン排出抑制法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡易点検の実施と記録</li> <li>・廃棄時の適正処理（業者への引き渡し）</li> </ul> [対象機器：空調機器]	○

※廃棄物管理票（マニフェスト）は電子マニフェスト

環境関連法規等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規等は遵守されていました。  
 尚、関係当局より違反等の指摘はありませんでした。

## 9. 代表者による全体評価と見直し・指示

作成日：2026年4月1日

取組項目別の評価とコメント		環境経営システム管理責任者：澤田 康平	
<b>① 環境経営目標とその達成状況</b>			
[未達成項目]	<input checked="" type="radio"/> 有	・	<input type="radio"/> 無
[目標設定についての問題]	有	・	<input checked="" type="radio"/> 無 (実態に合わせて見直した)
【CO <sub>2</sub> 排出量について】			
・引き続きお客様と仕入先数社でCO <sub>2</sub> フリー電力(オフサイトPPA)の共同調達を実施している。 電力使用量の数値は減少したものの目標未達だが、原単位で見ると目標達成している。			
【廃棄物排出量について】			
・産業廃棄物の総排出量は横ばい状態である。			
【水使用量について】			
・漏水試験等、水を多く利用することが無かったため目標達成している。			
<b>② 環境経営計画の実施状況</b>			
[取組についての問題]	有	・	<input checked="" type="radio"/> 無
[次年度の取組]	継続		
<b>③ 環境関連法規等の見直し・遵守状況</b>			
[見直し]	有	・	<input checked="" type="radio"/> 無
[遵守状況]	問題無し		
代表者による変更の必要性の判断・指示		代表取締役社長：澤田 靖	
<b>① 評価結果</b>			
[環境経営システム]	<input checked="" type="radio"/> 有効に機能している	・	<input type="radio"/> 機能していない
[環境活動への取組]	<input checked="" type="radio"/> 適切	・	<input type="radio"/> 一部適切でない
<b>② 変更判断</b>			
[環境経営方針の変更]	有	・	<input checked="" type="radio"/> 無
[環境経営計画の変更]	有	・	<input checked="" type="radio"/> 無
[環境経営目標の変更]	有	・	<input checked="" type="radio"/> 無
[実施体制の変更]	有	・	<input checked="" type="radio"/> 無
特記事項はありません。			
<b>③ 総括と指示事項</b>			
<p>昨年比で生産量増加に伴いCO<sub>2</sub>排出量のグロスも増加したが、省エネ改善により生産量の原単位は低減することが出来た。 今後も経営を取り巻く環境により生産量の変動が予測されるが、原単位レベルの改善は着実に進めていく方針である。</p>			